

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200679		
法人名	特定非営利活動法人 ハピネス福祉会		
事業所名	グループホーム琴の海		
所在地	〒859-3808 長崎県東彼杵郡東彼杵町蔵本郷884-1		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271200679-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4271200679-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成31年2月5日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

室内は、杉の木を使用した木造平屋作りの建物で、リビングからは、みかん畑や山が見渡せる長閑な場所にあります。中庭は、季節の木や花が植栽された明るく開放的な居室空間である。また、キッチンからリビングの様子が見渡せ、利用者とのコミュニケーションも図っている。定期的に避難訓練・災害訓練を実施し、地域住民との連携体制ができ、安心安全な暮らしに努めている。ホームでは各種イベントを開催し、多くの人と交流の機会を設け、利用者は充実した豊かな生活を送られている。その時のイベントの様子を写真に収め、ホーム内に掲示し、来所頂いた方にも観覧して頂いている。職員は家族や地域の方がいつでも気軽に来て頂けるような雰囲気作りも心掛けている。また職員は、現状に満足することなく意欲的に資格取得や技術の向上に向けて努力している。日々、皆様の健康維持に努め、脳の活性化の為に学習療法(読み・書き・計算)を取り入れ、職員と利用者は毎日をいきいきと楽しく過ごしている。御家族がホームで看取りを望まれば、利用者と家族が最後の時を共に過ごしていただけるような場所も提供し、御家族の精神的・肉体的な緩和ケアも行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してもうすぐ14年になる「グループホーム琴の海」は、地域密着型グループホームとして、当初より地域に根付いた開放的なホームを目指し運営されています。地域住民との関係も良好で、避難訓練時は協力体制を築かれており、地域の行事などにも声が掛かり地域住民の一員として安心した生活を送られています。

ボランティアの受け入れも積極的で、日舞・フラダンス・合唱・演奏の慰問など継続して関係を築かれ、学習療法も月曜から土曜日まで開催されています。

学習療法は、認知機能の維持のため個人目標を設定し、計画された学習のもとマンツーマンで対応されています。日々の積み重ねで、言葉数が増えたり、字が書けるようになったり、笑顔が増え自信に繋がったりなど、機能改善に繋がっているようです。また、それぞれの能力に応じて食事の準備や作業を通し、生き甲斐や役割を持つことで認知症の進行緩和にも影響しています。

ホームでは、認知症ケア専門士・看護師のホーム長をはじめ、認知症ケア専門士や介護福祉士、栄養士、歯科衛生士の資格を持った職員が揃っており、さまざまな視点から利用者をサポートされています。その人らしくある為に、日々のケアを通して色々な場面で可能性を引き出し、一日でも長く一緒に暮らしていけるように、職員が一丸となり支援されています。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	琴の海の理念「共に喜び共に悲しむ」を理念に利用者の能力に応じた活動(料理の下準備、洗濯干し・たたみ等)を行なってもらっている。また、利用者家族の了解のもと、利用者の住まい周辺の方々の面会の受け入れや地域の人たちを夏祭りやクリスマス会などの行事に招いている。	利用者・家族・職員が共に喜びや悲しみを分かち合える存在として、地域の中で支え合う暮らしの実現へと毎日取り組まれています。開設当初より掲げられている理念は全職員に浸透し、現在も大切に繋がられ利用者一人ひとりの自尊心を高めながら、その人らしい生活が送れるよう支援されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開放的な運営を行えるように、地域の人を年間行事に招いている。また、毎日利用者と一緒に琴の海周辺へ散歩に出かけ、地域との交流を図っている。地域保育園の園児を招いて、お遊戯や歌を披露してもらっている。	ホームの行事へ招待したり、野菜などの差し入れがあったり、地域の住民も気軽に立ち寄れる良好な関係です。最近では、近隣の公民館で開催された餅つき会に参加され、地域住民とのふれ合いを通し交流を深められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、火災時の避難訓練、ホームでの行事への参加を通じて、ホームのあり方や認知症の方への支援方法などを理解して頂けるよう努めている。相談等があれば、その都度応じて不安の緩和に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事の報告、事業所内の問題点や今後のケアや行事の取り組みなどについて話し合っている。また、スタッフによる「介護職に就く前と就いた後の考えや気持ちの変化」について発表してもらい、それから感じとられることをヒントにスタッフの育成につなげている。	会議は定期的に行われ、意見交換も活発にされています。また、ホームの取り組みや様子が詳しく伝わる為に、写真を活用するなどの工夫がされています。地域や行政、家族といった違う立場からの意見や取り組みの実情など、積極的に話し合われ、情報共有の場として有意義な時間になっています。	会議に参加されていない家族への報告は実施されていません。現在のホームの取り組みや話し合われている内容を知る機会を設けられ、今後の協力を得られるきっかけにも繋がるため、情報を共有される手段を検討される事を期待します。
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の利用状況の報告も毎月行なっている。また介護保険更新時にも連絡し確認を取り、地域包括支援センターや健康ほけん課と協力関係を築いている。	施設長は市町主催の研修会にも積極的に参加され、顔なじみの関係性を築かれています。月次の報告も継続しながら情報を共有し、迅速な相談に対応されるなど協力体制が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守るため身体拘束をしない方針でサービスを行なっている。玄関は施錠しないでアラームを設置しアラームがなるときは利用者につき添っている。身体拘束が必要な場合は、本人・家族等への説明を行い同意を得ている。また、職員に外部の身体拘束に関する研修会に参加(平成30年3月5日)してもらったり、琴の海内で施設内研鑽をしたりして身体拘束の理解を深めている。	身体拘束をしない方針のもと、行動を遮らず見守り、一緒に付き添われるなど、気持ちに寄り添った対応をされています。内・外部研修会にも積極的に参加され、行動の抑制のほか、言葉の掛け方や何が拘束に繋がるのかを正しく理解し、一人ひとりの尊厳を守ることの大切さを共有しながらケアの実践に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外で虐待防止の学習を行っている。利用者からつねられたり、叩かれたりする事がある時は、職員同士で相談し、悩みを共有している。そして、対応方法をみんなで話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスや勉強会を行い制度を理解している。成年後見制度を利用されている方が1名おられ、成年後見人の方との連携を通して、本人がよりよく生活されるような協力関係がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、法改正時の際は家族に説明し、了解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会・夏祭り・クリスマス会等の行事に参加された時に、家族の方の意見が聞かれれば、カンファレンスを開き、職員一同で内容を検討し反映させている。また家族が来所された折にもお話を聞き意見を反映させている。	面会時や行事の際に、家族と話す機会を設けられ、聴取された意見は職員で話し合い、実現へと繋がられています。一人ひとりの生活状況を月次郵送されています。また普段何げない会話からも家族や利用者の声を聴き、意見が出やすい雰囲気づくりに努められています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務の希望や人員等、職員の意見や提案を聞き反映させている。月1、2回のカンファレンスで、行事や誕生会のイベントについて話し合いを行い、意見を反映させている。お互いに意見を言い合える関係を築き利用者のサービス向上に繋げている。利用者の状況によっては、職員数を増やすなどの体制も強化している。	日頃からケアに関わる職員の声を大切に考え、毎月の会議ではやりたい事や提案を聞き、全職員で協力し合いながら支援に繋がられています。代表者や管理者にも直接意見や相談がしやすく、職員との信頼関係が築かれています。更に食事会を通して親睦を深め、関係性の構築と働きやすい環境に努められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や経験を活かした役割を持って仕事をしています。キャリアパス規程を設けている。職員の休憩時間の確保に努め、働きやすい環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修も受講してもらっている。また施設では具体的なケースを用いて考える能力を養っている。係の役割分担を行い、責任のある役を経験年数や能力に合わせて与え、更なる進歩を促している。経験年数から資格取得を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年に8回、グループホーム交流会を行い、専門職同士が集まり意見交換など行っている。事前に話し合うテーマを設定し、その事について各施設意見を述べている。また、その時知った良い所はホームに取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にケアマネ、家族から利用者の情報提供を受け事前に職員間で情報を共有している。結果、入所後、特に入所1週間は利用者の傍に寄り添い、または見守り利用者の理解に努めている。また、慣れ親しんだ家具の使用や携帯電話の所持の許可をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに関して家族からの要望を聞き、可能な限り応えている。希望があれば、家族の寝泊り、病院受診を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の身体状況や精神状況を考慮して、受け入れを判断している。事前情報、入所後の状況からアセスメントし、利用者の日常生活がスムーズにいくよう支援に努めている。入所後、特に1週間は利用者の傍に寄り添い、出来ること、出来ないことを把握し職員間で情報を共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼間は出来るだけリビングで過ごして頂き、テレビを観たり、料理の下ごしらえやタオルたたみ等一緒に行い、共に支え合うようにしている。レクリエーションを共にし、喜び楽しみを共有している。物忘れによる、不安を軽減するために、食事をした後に日誌を書いて頂いています。(現在3名)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日を家族と共に祝っている。また、毎月生活を記録した報告書を家族に送っている。更に、ホームではイベントを行い、利用者、家族間の交流の場を設けている。そのことで、家族との関係がよりよくなるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で開催される彼岸茶市(5月)は、家族の同意のもと積極的に参加され、昔馴染みの物を見学したり、顔馴染みの人との会話を喜ばれている。敬老会やクリスマス会に来所される合唱団コスモス・東彼フラダンスの方々との交流は長年続いている。家族、知人の方が来所された時には話し合いやすい環境を整えるように努めている。学習療法のボランティア サポーターの方の支援も頂いている。	友人や知人の来訪もあり、継続した関係性が現在も築かれています。恒例の行事である茶市では、毎年利用者が心待ちにされており、常連の店での買い物や会話を楽しみにされています。また、長きに渡りボランティアの人達との交流や関係性を築かれており、年賀状書きなどの協力支援もされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感情の変化を観察し、利用者同士が(新利用者には特に注意し)良い関係を保てるよう、食事時の位置・テレビを観る時の位置等気を配り支援に努めている。利用者同士の相性なども考慮し、席の配置をしている。喧嘩等の時は介入し、悪化防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方と連絡を取り、現在の状況を尋ねて必要に応じては相談や支援に努めている。退所後もホームにも来所しやすいよう関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、外出や外泊等の要望や思いに対してすぐに対応している。電話を希望される方は、すぐに対応し思いを伝えることができている。家族からの飲食の差し入れについては制限していない。しかし家族からの差し入れ等、毎日居室内の状況は把握している。本人の確認のもと飲食物を預かることもある。	普段から何げない会話から思いや意向を引き出し、ケース記録に記入し職員間で情報を共有されています。意思表示が困難な方は、傍に付き添い声を掛け合い、歌を歌ったりマッサージしたりとスキンシップを図り、表情や仕草から思いをくみ取り、家族からの情報と照らし合わせながら意向の把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の利用者の状態を観察したり、家族から情報提供、今までの介護ケアプラン及びケース記録・回想録等により、これまでの生活状況の把握に努めている。また自宅を訪問し、今までの暮らしぶりを見せていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を書き留め、状態の変化を把握している。またその時に職員がどう対応しているか日々ケース記録に記入し、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関の意見を合わせた介護計画書を作成している。カンファレンスで、利用者の担当者が心身状態や活動等を話し合い、介護計画に反映させている。問題がある場合にはミニカンファレンスを開き話し合い現状に応じた介護計画を作成している。	介護計画は本人や家族の意向が反映され、ケアに携わる職員や医療機関の意見を集約し作成されています。目標に向けての支援内容も詳しく明記され、具体的な取り組み方や活動内容が確認できます。定期的な見直しや状態変化に伴い内容を変更されるなど、利用者の現状に即した内容となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々の様子を介護記録に記入し、状態の変化等あればホワイトボードに変更等書き情報を共有している。状態の変化があれば、ホーム長や職員間で検討をし、必要があればカンファレンスを実施し話し合い、家族にも連絡を入れる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経管栄養の状態の方や重度化された状態の方でも、医療との連携により受け入れ可能である。家族も共に支える姿勢で取り組んでいる。病院受診が必要と判断した場合、家族への連絡後、看護師は病院への支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学習療法(読み、書き、計算)の指導にボランティアで地域の方に来て頂き、利用者はいきいきした表情で楽しく取り組まれている。毎年、日舞・コーラス・フラダンス、楽器の演奏にも来て頂き利用者は楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を聞き、担当医を決めている。月1回の内科往診、30年度から歯科往診を月2～4回行われている。事前に連絡を入れ、往診時スムーズにいくよう医療側と連携をとっている。また急を要する時は受診もしくは往診依頼をその状態に応じて行っている。	本人や家族の意向を汲み取り、かかりつけ医を決められています。現在は、ホームの協力医と連携され、定期的な往診と緊急時は、施設長が受診に同行し、24時間連絡体制が築かれています。歯科往診時は、歯科衛生士の資格を持った職員が付き添い、日常生活での口腔ケアの支援に繋がられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は介護職員からの情報、観察等により本人の健康管理を行っている。状態観察により主治医の診察が必要な時は病院受診し、治療を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要となった場合は家族と連絡し、医師の状態説明を聞いて頂く。入院の準備はホームで行い、入院生活に支障がないよう配慮している。ホームでの本人の状況を病院関係者に説明し、本人及び病院関係者が困らないように説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明時や、利用者の状態が悪くなった場合にも、重度化対応看取り指針等の説明を行っている。家族の希望を受けホームでは、現在までに14名看取りを行った。	これまでホームでの看取りの経験もあり、利用者や家族の希望があれば受け入れに応じられています。身体状況に応じて段階的に家族と担当医、全職員で方針を話し合い、身体面・精神面から本人に寄り添った支援に努められています。家族の宿泊も可能でサポート体制も整えられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故が発生した場合は、ホーム長に連絡し、利用者を安全・安楽な体位にし、初期対応を行うようになっている。事故対応マニュアルを頭に入れ、職員は落ち着いて対処できる様心掛けている。また心肺蘇生法の講習会に参加し、消防隊員指導の下、緊急時の対応を学ぶ。(抜き打ち訓練を行い、職員全員が合格するまで心肺蘇生法を身に付ける訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災を想定して、年2回地域の方にも参加して頂き避難訓練を実施している。災害時対応マニュアルや防災マップ、避難場所を確認し危険区域を把握している。火災チェック表の確認を行い日々防災意識を持っている。水害に対しても町の災害対策に准じて実施した。また災害時には消防団と速やかに連絡できるようにしている。(平成30年11月に災害訓練実施)	定期的に火災時の避難訓練を実施され、ホーム周辺の近隣住民の協力も得られています。災害時の役割体制や緊急時連絡網も詳しくマニュアル表に作成し、職員間で共有されています。自然災害時の危険区域であることも把握され、避難場所である施設との協力体制も築かれています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬を持って傾聴し言葉掛けや対応を行っている。また職員間でも勉強会を開くなどして言葉遣いや態度について意識し実践している。	言葉の掛け方や接し方など、職員は本人の立場に立って考え、尊重した丁寧な話し方を心掛けられています。トラブルが起きそうな時は、そっと間に入り居心地良い環境を整えられたり、また、失敗された時はさり気なくフォローし、誇りやプライバシーを損なわれないよう対応されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮等から御自分の思いを伝えられない方、耳の遠い方等、表情や態度などを見ながら、声掛け・ジェスチャーなど行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝られる時、休まれる時、起きられる時も状態や時間を見て本人に尋ねながら一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで服を選んで頂いたり、本人や家族の希望があれば、カット、ヘアカラーをしてその方らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。女性の方には、必要に応じて化粧品(乳液・ヘアクリーム等)の購入も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立は、栄養士が一人ひとりの好みを考慮し、栄養バランスを考え季節の物を取り入れた献立を作成している。個人に合った食器やスプーン類の素材や形にも配慮している。また一人ひとりの咀嚼、嚥下機能、歯の状態を考え食べやすい形態にし楽しく食事ができるように見た目も考え、摂取して頂くように努めている。料理の下ごしらえや食器拭き等の出来られることはして頂いている。	食材の皮むきなどのお手伝いができる方は積極的にして頂き、その方の残存機能や能力を引き出す場面を大切に考えられています。一緒に協力しながら作業することで自信や意欲に繋がっていることが伝わります。月1回は利用者とのおやつ作りをしたり、外食に行かれたり楽しみもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減、利用者の一般状態や体温上昇・外出後等の状況を考慮し食べる量、水分量などを考えて支援している。また、必要に応じてサプリメント等も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士指導の下、毎食後は舌ブラシ、スポンジ、歯ブラシ、歯間ブラシ、口腔ケアウェットシートを使用し口腔ケアを行っている。うがいにはお茶を使用し、口の殺菌・口臭予防に努めている。また歯磨きに、人体に害がないものを使用し、毎夜洗浄剤(歯科用義歯洗浄剤:デンチャークリーナー)で除菌している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレに誘導している。また、見守りできる環境を作っている。失敗された時は速やかに衣服を交換している。必要に応じて居室にポータブルトイレを設置し排泄の自立支援に努めている。リハビリパンツや紙おむつに変更する時は十分検討してから行う。	排泄の間隔や時間帯を職員が把握し、タイミングを見計らって声かけやトイレでの排泄支援に取り組まれています。その結果、汚染が少なくなった方もいらっしゃいます。表情やサインを注意深く観察しながら、不安なくトイレへ行けるよう努められています。また、オムツやパッドの種類は、適宜身体状態に合った物を選定されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食品、乳製品を毎日の献立に取り入れている。また、排便促しに効果があるとされる食品があれば提供し、効果があれば続けている。併せて運動や腹部マッサージも行っている。それでも改善されない時は薬を服用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回以上入って頂き、その時の利用者の体調に合わせて入浴時間や、携わる職員数を変えて安全に楽しく入浴できるようにしている。入浴日以外にも、病院受診や誕生会前、排泄等による汚染があれば臨機応変に対応している。現在、介護度により入浴者を決めている。(軽度4名・中度3名・重度2名)	利用者の体調や気分によって入浴できない時は、時間帯や曜日を変える等柔軟に対応されています。身体機能に応じて、利用者が負担なく入浴できるように職員体制を調整されたり、浮き輪を使って怪我しないように工夫されたりと安全に配慮されています。また、ゆず湯や菖蒲湯などの楽しみも作られています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は利用者の身体状況に応じてベッドやソファで休んで頂いている。テレビを見て過ごされる方には、座り心地、安楽を配慮している。睡眠に不安のある利用者で、眠剤服用の方は1名おられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員が薬を服用されている。手にのせたり、口の中まで入れたり、トロミをつけて利用者に合わせている。薬の目的・作用・副作用を把握し経過観察に努め、状況に変化があった時には看護師や主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事を活かしたお手伝いをして頂いている。気分転換の為、週課表に沿ったレクリエーションやホーム周辺の散歩を楽しんで頂いている。また、年に1度は花見・茶市・バイキング・ハイキングにも出掛けている。ご要望がある方(食べたいもの:芋・みかん・おはぎ・混ぜ御飯等)は、その要望を叶えられるよう取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	週1度は散歩に行けるようなスケジュールを組み実施している。何度か外に行きたい方があれば付き添い、車等からの危険を守るようにしている。利用者の希望があれば買い物に同伴したり、家族の希望があれば外出、外泊もされている。その他、年間行事の中の花見、茶市、バイキング・ハイキングや自転車ロードレースの応援、蔵本浮立の見学、地域の餅つきの見学にも出掛けている。	週1回は、散歩へ行く計画を立て週課表に組み込まれています。近所の店に買い物に出かけ、地域の行事や戸外に出掛ける機会もあり、柔軟に対応されています。花見の時期には、河川敷でおやつを食べたり、茶市では馴染みの店で買い物をしたりする等バイキングなどの楽しみもあり大変好評のようです。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じてお金を持って頂いたり、お祭りや外出時には家族の了承を得て、職員がサポートする事で買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に出る事ができる利用者には話をしたり、職員が手伝って利用者から電話する事もある。また家族に、時候の挨拶等ハガキで出せるようにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、中庭の花々・生け花・飾り付けで季節を感じて頂いたり、音楽を流す事でリラックス出来る空間作りをしている。施設内は、生活空間の妨げになるような物を置かない事で利用者が安全で自立した生活が送られるように心掛けている。温湿度計を設置することで意識して確認を行い、快適な温湿度に努めている。	玄関に入ると随所に色々な鉢植えがあり、季節が感じられるような掲示物など目を楽ませてください。利用者が集う場所からは、季節の花や木々など手入れされた中庭が眺めることができ、自然と会話の話題にも繋がるような雰囲気を感じられます。リビングから続くベランダでは、椅子に腰掛けて外気浴が楽しめます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の座席やソファの位置・高さ等は、利用者がくつろげるように配慮し工夫している。問題がある場合、ミニカンファレンスを開き即時に改善出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた愛着のある衣服・布団類を持って来て頂いている。誕生会の御家族の写真や手紙をいつでもご覧になれるようにして安全で明るい雰囲気になるように整理整頓を心掛けている。	各部屋には、一人ひとりの趣味嗜好が伺えるようなレイアウトや、家族や友人、若い頃の写真など綺麗に飾られ、その方が一番大事にされてる事を大切に考えられています。また、利用者が使いやすいように家具の配置を考え、無理なく安心して過ごせるような工夫も見られます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態を考えて危険性のないように、椅子やベッド・ポータブルトイレの種類や高さ・位置を考えて身体拘束のないように工夫し、利用者の状態に変化があった時にはその都度話し合い変えるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			